

## 畜産部会臨時委員としての意見

これまでも度々申し上げてきたとおり、乳業者としては、わが国酪農の最大の課題は、生産基盤を維持・強化することであると考えており、とりわけ都府県の生産基盤の強化は喫緊の課題であると考えています。そこで、本日は、良質な生乳の安定的な確保という観点から、酪農生産基盤の強化を中心に、改めて意見を述べさせていただきたいと思っております。

### 1 生産基盤の強化

#### 1) 酪農関連制度の安定

第1に、繰り返しになりますが、酪農家が安心して生産を継続できるようにするためには、酪農関連制度が安定し、信頼できることが重要です。本畜産部会のこれまでのヒアリングにおいても、生産者や指定団体の代表者の方々から、生産現場で対応している立場から様々な意見や課題が表明されたことを真摯に受け止めていただきたいと思います。そのうえで、2018年度から導入された新たな酪農制度が、わが国酪農乳業の発展に資するものとなっているのか、その運用も含めて、定期的に検証していく必要があると考えます。

その際には、一部の意見を偏重せず、今回の畜産部会におけるヒアリングのように、改めて実務を担う主要な生産者や乳業者の意見をよく聞いていただきたいと思います。そのうえで、既に、生産者団体においては契約のあり方の見直しなどが検討されているようですが、諸外国における実例なども参考にしながら、必要に応じて、制度の運用改善を図っていただくようお願いいたします。

#### 2) 担い手（後継者・新規参入者・雇用労働者）の確保

第2に、生産基盤を強化するためには、後継者や雇用を含めた新規参入者が魅力を感じるような産業でなければなりません。

##### (1) 酪農ヘルパー等酪農支援組織の充実・強化

特に家族経営においては、他産業に比べて労働時間が長く休日の確保が十分にできないという課題があり、後継者が後を継ぎたがらない要因の1つとなっています。これを改善するためには、搾乳ロボット等の新技術の導入、酪農ヘルパーやコントラクターなど外部支援組織の活用等による労

働時間の軽減や休日の確保が重要であると考えます。

とりわけ、酪農ヘルパーについては、酪農への新規参入者の予備軍ともなることから、その充実・強化は極めて重要であると考えます。同様の観点から、法人経営における雇用労働力の安定的確保も、従業員の労働時間の軽減や休日の確保のためには重要であると考えます。

## **(2) 後継者等向けの情報・支援の充実・強化**

また、生産基盤の維持・強化のためには、大多数を占める家族経営の安定的な継続が基本であると考えます。したがって、家族経営の後継候補者が進んで就農したくなるように、新規参入者ばかりでなく後継者向けの情報・支援（特に経営指導・会計教育など）を充実・強化することも重要であると考えます。このような観点から、農業高校・農業大学校等への酪農関連情報の提供と連携も有効であろうと考えます。

## **(3) 農協等による酪農経営への参入促進**

これまでの基本方針においても、担い手の確保は重要な課題として位置づけられてきました。最近では、家族経営の減少による生産の減少を、資本金のある大規模経営体の増産により補ってきたところですが、それでも生産は減少し続けています。こうした中、家族経営を支え、生乳の安定供給を図るという観点から、北海道の先進的な農協等が酪農経営に参入して地域経済を支えているように、都府県においても、例えば、耕作放棄地の集積等を図る農地中間管理機構と連携し、資本金と技術的知見のある農協等が酪農経営に参入しやすくなるよう、その仕組みの構築と支援策を検討していただきたいと考えます。

## **3) 後継牛の確保及び乳用牛の改良**

第3に、国産の牛乳乳製品の需要に応じて生乳生産を回復させるためには、後継牛を安定的に確保するとともに、貴重な乳用牛を有効に活用していく体制を構築する必要があります。

### **(1) 肉用牛生産の安定による乳用後継牛の安定的な確保**

このためには、その前提として、肉用牛の頭数を需要に応じて十分に増やしていただくことにより、乳用牛の腹を利用した交雑種等の生産を抑制し、副産物の生産・販売に依存しないで済む酪農経営の確立が重要です。その上で、畜産クラスター事業等による施設整備や雌雄判別精液の利用拡大を図ることなどにより、安定的に乳用後継牛が確保される体制を構築す

ることが重要であると考えます。

## （２）供用年数の延長

ただし、後継牛が確保されても、経産牛の更新にのみ用いられ、増頭に貢献しなければ意味がありません。このため、更新が早いといわれている大規模経営体などを中心として、乳用牛の供用期間を延長していただくような取組も重要であると考えます。さらに、乳用牛という貴重な資源を無駄にしないためにも、引き続き、廃業農家が所有する乳用牛を地域内で有効に活用する対策を講じていく必要があると考えます。

## （３）乳用牛の改良

さらに、限られた乳用牛資源を有効に活用するためには、乳用牛の能力を他の酪農先進諸国並みの水準に着実に改良していくことも重要です。中長期的な需要の変化や飼養管理方式の変化も見据え、連産性が高く、ロボット搾乳にも適した改良目標とする必要があると考えます。

## ４） 飼料生産基盤の確保

第４に、生乳を安定的に生産するためには、価格変動等による影響が少なく、環境問題への対処にも有効かつ風味に対する効果なども期待される粗飼料の生産・利用を拡大する必要があります。

### （１）粗飼料の生産・利用の拡大（主に北海道対策）

地域や土地条件の制約の違いにもよりますが、良質な生乳を安定的に生産・確保するためには、価格変動の大きい輸入粗飼料への依存から脱却し、低コストで生産が可能な国産の粗飼料の生産・利用を拡大することは極めて重要です。飼料生産基盤が比較的豊富な北海道などにおいては、コントラクターやTMRセンター等の飼料生産組織を充実・強化することにより、良質な粗飼料が効率的に生産されるだけでなく、労働時間の短縮にも貢献することが期待されます。

### （２）水田を利用した粗飼料生産・利用（主に都府県対策）

一方、都府県を中心として、水田を活用したWCS（ホールクroppサイレイジ）用稲や飼料用米の生産・利用の拡大が図られていますが、土地面積当たりの栄養収量や栄養バランスに加え、飼料自給率の向上を考慮すれば、WCS用稲などよりもデントコーン等の粗飼料を生産した方がはるかに効率的であると考えられます。しかしながら、水田活用直接支払いの

交付単価は、WCS用稲が8万円/10aであるのに対して、デントコーン等の飼料作物は3.5万円/10aであることから、その生産・利用が進んでいないと聞きます。

過去の経緯等があることは承知していますが、仮に、飼料作物の交付単価をWCS用稲並みに引き上げて両者を置き換えたとしても、財政負担は変わりません。肉用牛生産対策として、本年度から肉用子牛生産者補給金制度における保証基準価格等の大幅な見直しが行われたように、都府県の酪農生産基盤を強化する観点から、生産者の背中を押すようなインパクトのある見直しを検討していただければ幸いです。

### **(3) エコフィードの生産・利用**

飼料自給率の向上のみならず、コストの低減や資源循環の確保を図る観点からも、食品残渣等を利用するエコフィードの生産・利用は重要であると考えます。しかしながら、エコフィードの水分や品質が安定しないため、このことが乳業の経営にも影響の大きい牛乳の風味変化問題の発生原因の1つともなっています。このため、こうした問題が発生することのないよう、エコフィードの品質の改善と安定化を図っていただきたいと考えます。

## **2 酪農の経営・支援及び継承のあり方**

次に、視点を変えて、環境対策を含めた酪農経営に関する意見を申し上げます。

### **1) 酪農経営の強化**

近年の生乳需給の逼迫に伴う継続的な乳価の引き上げやTMRセンター等の酪農外部支援組織の充実を背景として、需給緩和を経験したことのない一部の酪農家において、経営の強化に向けた改善努力がおろそかになっている事例があると聞きます。このため、経営安定対策の充実・強化に加え、経験の浅い酪農家に対する基礎的な技術指導は、依然として必要であると考えます。

### **2) 酪農支援組織の活性化**

しかしながら、とりわけ都府県においては、酪農家数の減少に伴い、多くの地方行政機関や地域の酪農支援組織も統廃合等により合理化され、技術指導を行えるような人材がいない、またはその余裕がないという問題があります。このため、国が酪農振興のための事業を作っても、目的とした

酪農家に活用されず、生乳生産の減少に歯止めがかからないという悪循環に陥っていると聞きます。

このような実態を踏まえ、酪農支援のための組織のあり方や活性化について、検討する必要があると考えます。そのうえで、酪農家に孤立感を感じさせないように、事業の活用ばかりでなく、地域を越えた家族経営の横のつながりを支援するような取組みも推進する必要があると考えます。

### 3) 円滑な経営継承システムの構築

また、こうした傾向に歯止めをかけるため、酪農への新規参入者を安定的に確保するための仕組み作りや、後継者がいないために廃業せざるを得ない酪農家の施設を新規参入者に円滑に継承できるようにすることも、貴重な資産の有効活用という観点から、改めて検討する必要があると考えます。北海道にける実例などを参考にしながら、都府県においても、ソフト・ハード両面から支援措置を総合的に検討し、第3者への酪農経営の資産継承について、地域ごとの実態に応じた効果的な仕組みを検討・構築する必要があると考えます。

### 4) 畜産環境対策の充実

最後に、酪農経営の継続という観点から、畜産環境対策の充実が必要であるということも申し上げたいと思います。

酪農家の後継者が後を継ぎたがらない理由としては、労働時間や休日の確保の問題に加え、畜産環境問題が挙げられます。近年、人々の環境意識が高まっている中、とりわけ土地面積の少ない都府県においては、家畜排せつ物は近隣住民から迷惑がられることに加え、老朽化した堆肥舎等の修繕等にはコストはかかるものの利益を生まないことから、経営休止に至る例が多いと聞きます。このため、こうした経営が継続できるよう、後継者の確保と関連付けるなど、支援策を検討・工夫していただきたいと考えます。

以上、良質な生乳の安定的な確保という観点から、酪農生産基盤の強化に加え、酪農の経営・支援及び継承のあり方について、乳業者としての意見を申し上げます。